

天竜川流域における公園成立の特徴

佐々木 邦博

信州大学 農学部 森林科学科

Characteristics of the public park foundation in Tenryu valley area

Kunihiro SASAKI

Department of Forest Science, Faculty of Agriculture, Shinshu University

Key words : Public Park Foundation, Meiji Era, Tenryu Valley

公園設立、明治時代、天竜川流域

1. はじめに

わが国では明治6年(1873)に発布された太政官布告第16号により初めて公園の設置が制度化されている。この布告によって、全国で次々と公園が生まれていくのだが、布告後に一挙に多くの公園ができたのではない。明治時代、そして大正時代を通じて、公園が各地で開設され続けていくのである。

公園とはそれまでは日本になかった概念であり、新しい空間である。江戸時代末期に行われた開国後、横浜に作られた外国人居留地において、「public garden」を設立しようという希望があった。交渉にあたった江戸幕府の役人が「公園」という用語を造り、その翻訳にあてたのがその始まりである¹⁾。

ゆえに、公園のイメージは西歐的なものをひきずっていた。一方で、太政官布告には群衆遊観の場所を公園とするとし、東京の浅草寺や京都の嵐山、清水寺などをあげている。これは江戸時代から続く人々の慰安の場所であった。西歐の文物に対して日本ではまだ十分な情報が得られていない時期だったため、やむを得なくもあったが、そもそも公園とは市民のために作られた空間である以上、江戸時代からにぎわっていた場所を公園とするのは、その意味から考えると当然の処置でもあったといえる²⁾。

このような公園の開設の広がり具体的な動きは重要であるにもかかわらず、十分には明らかにされていない。筆者が散見した限りでは、筆者による「明治・大正期の長野県における公園設立の展開」(1996)³⁾

があるにすぎない。長野県という地域を対象にして公園の設立を調査し、考察したものである。

その結果、次の3点が明らかとなっている。

- 1) 明治6年以降、県内に開設された公園は次第に増加していくが、特定の地方に集中して作られたことはなく、分散していた。明治時代は観光名所にもなるような公園が作られていたのに対し、大正時代には開設が記録に残らないほど数が増え、地元の人々が自分たちのために作る公園へと性格が変化している。
- 2) 公園の空間は類似している。見晴らしのよい場所を選び、桜や楓や松を植栽するのが一般的な姿であった。
- 3) 県庁所在地の公園はイベントが行われるなど、情報発信の場所ともされていた。

さて、これらの公園の定義だが、公園と呼ばれた場所はすべて公園と見なすことにした。それらの場所は、公有地になっているかどうかを別にして、地元の住民にとって公園と解釈されていたからである。

現在まで私が掌握している明治時代に作られた県内の公園は32カ所である。その中で、今度は、対象地をさらに狭め、天竜川に関係する諏訪、上伊那、下伊那地方を取り上げてみる。これらの地方には、明治時代に開設された公園が13カ所判明しているが(表-1)、それらの公園の立地している場所や推進母体を中心に、これらの地方における公園の設立の特徴を考察していきたい。

表-1 明治時代に開園した公園の場所

	公園名	設立年	所在地	公園以前の土地利用
1	高遠城跡公園	1875 (明治8年)	上伊那郡高遠町	高遠城跡
2	高島公園	1876 (明治9年)	諏訪市	高島城跡
3	今宮公園	1889 (明治22年)	飯田市	郊戸神社境内
4	共楽園	1893 (明治26年)	駒ヶ根市	共有地
5	平出公園	1894 (明治27年) ?	上伊那郡辰野町	高德寺隣接地
6	丸山公園	1896 (明治29年)	伊那市	常円寺境内
7	水月園	1902 (明治35年)	諏訪郡下諏訪町	慈雲寺裏の高台
8	山神公園	1902 (明治35年)	上伊那郡辰野町	?
9	辰野公園	1906 (明治39年)	上伊那郡辰野町	辰野駅北側の山の中腹
10	花岡公園	1908 (明治41年)	岡谷市	花岡城跡
11	富士見公園	1911 (明治44年)	富士見町	原の茶屋付近の丘
12	岡谷公園	1912 (明治45年)	岡谷市	小部沢社境内
13	鈴岡公園	1912 (明治45年)	飯田市駄科	鈴岡城跡

2. 調査の方法

各市町村が発行している市町村誌の類、あるいは戦後に各郡が発行した郡誌、その他の郷土史に関する文献を中心に調査を行った。また、1/2500の地図を利用したり、現地の調査をおこなった。

ただし、公園の面積は設立当初の範囲が不明確なことが多いので、今回も扱わない。

そして特に後者だが、未だ不十分にしかおこなっていない。わかる範囲で考察を進めていく。

3. 各地方による違い

表-1をもう一度参照してほしいのだが、この地方に明治時代に作られた公園は、現在確実にわかっているのは13カ所である。それらの地方による違いを探してみよう。

これら13カ所の公園は、諏訪地方に高島公園、水月園、花岡公園、富士見公園、岡谷公園の5カ所、上伊那地方には高遠城跡公園、共楽園、平出公園、丸山公園、山神公園、辰野公園の6カ所、下伊那地方には今宮公園、鈴岡公園の2カ所がある。

諏訪地方と上伊那地方が多く、下伊那地方は少ない。ただ、3カ所も判明している辰野町の事例から、注意しなければならないことがあげられる。辰野町では辰野町誌を編集する際に、公園の項目をたて、綿密な調査を行っている⁴⁾。そのことは拙論でもふれたが³⁾、綿密な調査をすればかつての公園が見つかる可能性が強そうである。平出公園は辰野町平出に造られたが、大正15年(1926)の高徳寺類焼の後衰退し、戦後に場所を変えて造成したが、自然消滅している。現存していない⁵⁾。また、辰野町一ノ瀬に造られた山神公園

はやはりその場所が不明となっている。辰野駅の北の山の中腹に造られた辰野公園だけが現存している。一ノ瀬に造られていたことから、決して人口の多い町にだけ造られ始めたわけではないことがわかる。よって下伊那地方は公園が少なかったと一概にはいえない。現存する公園が少ないのは確かだが、今後の調査で失われた公園が見つかる可能性があるといえる。

4. 設立年代と場所から見た特徴

表-1の設立年には、公園とする決定がなされた年を原則として上げている。不明な場合は公園の工事開始の年が開園した年、もしくは文献上に名がみえる年をあげている。

一見してわかるのは太政官布告直後に造られた公園が高遠城跡公園と高島公園の2カ所あり、また明治20年代に今宮公園、共楽園、丸山公園が造られ、明治35年からまたそのほかの公園が造られていくことである。

3グループに分かれるが、最初の2公園は共通することが多い。ともに直前まで領地を治める城としての機能を有していた場所であるし、公園化を推進したのが旧藩士だったことも共通している。いわば過去を記録しておくために、あるいは追憶するために、江戸時代の統治の要であった城を新たに公園として残そうとしたのである。その結果、確かに残されたのだが、統治していた武士に替わって、一般の人たちが憩う新しい場所として利用され続けていったのである。

次の明治20年代に造られた3カ所の公園のグループには、やはり共通項がある。造られた町は、飯田、駒ヶ根、伊那であり、街道により商業の中心地としてそれぞれが栄えていた。地区の中心であり、そこに公園が

新たに造られたのである。今宮公園は郊戸神社の境内に、共楽園は共有地に、丸山公園は常円寺の境内に造られた。神社やお寺の境内は私有地だが、氏子や檀家とその町の住民であることを考えると、準公有地といってもよい性格の土地だったことが判る。このような土地に町の憩いの場を整備したのがこの時期の特徴といえる。

明治30年代以降には7カ所造られているが、造られた町も多様であるが、諏訪地方と辰野町に多い。これは、辰野町の例を出したように、これらの地方で公園がよく調べられていることが、数多く現れていることの理由だと考えられる。ゆえに、先程述べたように、今後、他の地方で調査が進むとさらに公園数が増える可能性がある。公園が設置された場所であるが、寺社の境内や城趾が多い。やはり、準公有地を公園として住民のために利用できる場所としたのだろう。

5. 公園と立地した場所の特徴

表一2にそれぞれの公園の特徴をまとめている。公園を造るにあたって、選ばれた場所の地形的な特徴を見てみよう。

平坦地に造られているのは1カ所しかない。高島公園であるが、石垣に囲まれた高島城本丸跡は小高い土地である。

多いのは、まず丘の上に造られた場合があげられる。この場合を例にあげると、高遠城趾公園、花岡公園、富士見公園であり、富士見公園以外は城跡に位置している。かつて戦国時代に山城であったところが公園化されているのだが、高遠城趾公園は高遠城の跡地が公園となったものである。北側と西側を流れる藤沢川と

南側に流れる三峰川に挟まれた丘陵地であり、東側は山に接している。川から本丸まで約60mの高低差があり、川に接した斜面は急峻で、まさに要害の土地といえる。一方、花岡公園は江戸時代にはお城があったわけではない。花岡城趾は諏訪湖の釜口水門の南側にあり、古くは古城山などといわれ、今は城山と呼ばれている。鎌倉時代初期の築造ともいわれ、武田・小笠原の合戦場となった場所でもある。諏訪と伊那を結ぶ交通の要所にある丘の上だが、その本郭跡だけが江戸時代も共有地として残り、そこがまず公園化されたのである⁶⁾。富士見公園は原の茶屋付近のなだらかな丘の上にある。元々この地は明治13年(1880)に明治天皇の巡幸につき、富士を眺める場所として整備された。このときに公園化されたとみなすと、公園の設立は明治13年となる⁷⁾。その後、明治44年(1911)に、来遊した歌人伊藤左千夫が村助役の丸山虎之助とともに公園の設計を行い、整備している。歌碑・句碑が多い公園である。このように、同じ立地条件でも、経緯が異なっていることが多い。

同様に3カ所ある段丘崖上の台地に造られた公園を見ても、共楽園は共有地、丸山公園は常円寺境内、鈴岡公園は鈴岡城趾であった。ここからも、同じことがいえる。

以上のように、立地した場所は丘の上、段丘崖上の台地、山の中腹、山麓などであるが、来歴とは直接には関係なさそうである。

6. 整備と内容の特徴

これらの公園がどのように整備されたのか、すなわちなに造られたのかという点を見ていこう。表一2

表一2 明治時代に開園した公園の特徴

	公園名	立地	整備と内容の特徴	推進母体
1	高遠城跡公園	丘の上	桜、眺望	旧藩士が努力
2	高島公園	湖の上	桜、眺望	旧藩士が努力
3	今宮公園	丘陵の中腹	梅、桜、松、池、芝原、眺望、公会堂、噴水付き円形池	町内有志
4	共楽園	段丘崖上の台地	桜、松、杉、池、眺望	赤穂町耕地が施工、全村的に寄付と労力を募る
5	平出公園	山麓	桜、滝、池、螢、眺望	平出同志会が造る
6	丸山公園	段丘崖上の台地	築山、池、眺望	?
7	水月園	山の中腹	桜、楓、句碑、眺望	地元の俳句の会である水月会が造る
8	山神公園	?	桜	青年会が造る
9	辰野公園	山の中腹	眺望	辰野駅開駅記念、料芸組合と商業組合が中心
10	花岡公園	丘の上	桜、眺望、料亭	花岡青年会が造る
11	富士見公園	丘の上	富士山の眺望、東屋	伊藤左千夫と丸山為之助(村助役)が設計
12	岡谷公園	山麓	桜	岡谷青年会が造る、岡谷軍人部会は協力
13	鈴岡公園	段丘崖上の台地	桜、楓、五葉松、ツツジ、眺望	駄科同盟会が造る

をみると一見してわかることは、ほとんどの公園に桜が植えられていることである。桜の記述がないのは丸山公園、辰野公園、富士見公園である。現在それら3公園を訪れると、いずれも桜の老木がある。開園したときに植樹されたかどうかはわからないが、その後植えられていることは確かである。すなわち、これらの公園の開設を記している『坂下区誌』⁸⁾と『常圓寺』⁹⁾、『辰野町誌』⁴⁾、『富士見村誌続巻』⁷⁾に詳しい記述がないことがその一因であり、不明という扱いが適切だろう。まさに明治時代の公園には桜が付き物であったといえる。

そのほかに植えられている樹木は梅、松、楓などがある。

次に、眺望という要素も欠かせない。眺望が不明なのは山神公園と岡谷公園だけである。山神公園は場所が不明なので、調査できない。岡谷公園は諏訪湖西岸の山麓にある小部沢社境内にあり¹⁰⁾、現在はそのことを記した標柱がたてられているにすぎない。しかし小高くなった土地であり、東の方を見ると、ビルさえなかったら諏訪湖が見える立地条件にある。境内の上まで上ると実際に諏訪湖が望める。かつては諏訪湖が望める眺望の地であったと想定される。すなわち、明治時代に造られた公園は、おそらくほとんどが眺めのよい土地を選んで造られたことが考えられる。

また、建築物が記載されている場合もある。今宮公園には公会堂である風越館が造られたし、花岡公園には4年後に紫明閣ほか数件の料亭をたて、桜を植えるとともに花見電灯をつけたとある⁶⁾。もっとも風越館にも大広間があり、また貸席もするなどあらゆる会合に利用され、宴会にも用いられたようである¹¹⁾。この2例しか判明していないが、このように、花見などの場所としてだけでなく、眺望がよく四季を通じて風流を味わえる場所として、宴会にも利用される傾向が当時の公園にあったのではないかと考えられる。

7. 公園設立の推進母体

最後に公園を設立していくにあたり、推進していった団体を見ていこう。明治初期の公園は旧藩士らが中心であった。その後もやはり地元の住民の何らかの組織が中心となって動いている。たとえば共楽園の場合は地元有志より寄付を受けた赤穂町耕地が関係各耕地に呼びかけて施工している。耕地とは明治時代における従来からの自治組織としての部落呼称であり、公的な行政区画は区と呼ばれていた¹²⁾。そのほかには青年会や組合、同志会や同盟会が中心となっている。変わっ

たところは水月園である。地元下の原の俳句愛好者有志により、滋雲寺住職を会長に水月会を発足し、滋雲寺裏山の高台を公園として開発した。俳句愛好者により風致が整えられたのである。富士見公園も中心となったのは歌人の伊藤左千夫と村の助役丸山虎之助だが、丸山は丸山と号している。句碑が公園に建立されていることから、俳人であったと思われる。このように、詩歌という文化の影響が見られることも明治時代の公園のもう一つの特徴であった。

8. おわりに

以上のような特徴が天竜川流域が中心の地方に見られた特徴であった。長野県一般の特徴と比較すると、眺望を不可欠とし、特に詩歌の文化の影響がみられることが強く感じられるが、今後の研究の課題としていきたい。

引用文献

- 1) 白幡洋三郎(1995):近代都市公園史の研究、思文閣出版
- 2) 田中正大(1974):日本の公園、鹿島出版会
- 3) 佐々木邦博(1996):明治・大正期の長野県における公園設立の展開、信州大学農学部紀要、第33巻第1・2号、pp.41-50
- 4) 辰野町誌編纂専門委員会(1988):辰野町誌近現代編、辰野町誌刊行委員会、pp.966-969
- 5) 平出区誌刊行委員会(1993):平出区誌、pp.543-545
- 6) 花岡区誌編集委員会(1983):花岡区誌、pp.27-31
- 7) 富士見村誌刊行会(1971):富士見村誌続巻、pp.327-328
- 8) 坂下区誌編集特別委員会(1994):坂下区誌、坂下区誌刊行委員会
- 9) 常圓寺誌編纂委員会(1972):常圓寺、甲陽書房、p.84
- 10) 岡谷市(1976):岡谷市史中巻、p.937
- 11) 小林郊人(1960):名勝今宮、信濃郷土出版社
- 12) 駒ヶ根市誌編纂委員会(1979):駒ヶ根市誌現代編上巻、駒ヶ根市誌刊行委員会、p.107